

## 調査結果の概要

### ■ 成果

#### コメ収量（1981～2000を基準とした相対値）

- 温度上昇が小さくCO<sub>2</sub>濃度が増加するため、全国的に殆どの地域で増収となるが、特にCO<sub>2</sub>濃度上昇の大きいRCP8.5 では21世紀末には大きな増収が算定されている。

#### コメ品質（HD\_m26：高温による品質低下リスク指標）

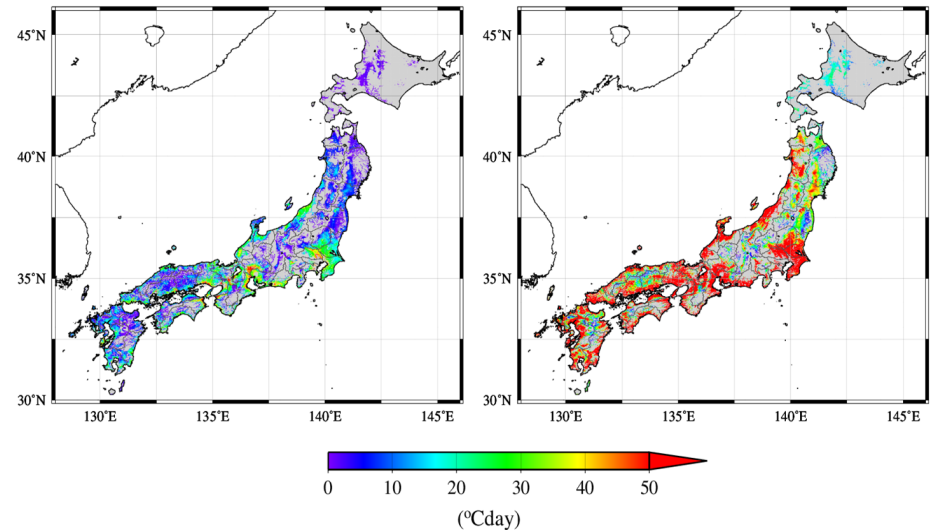
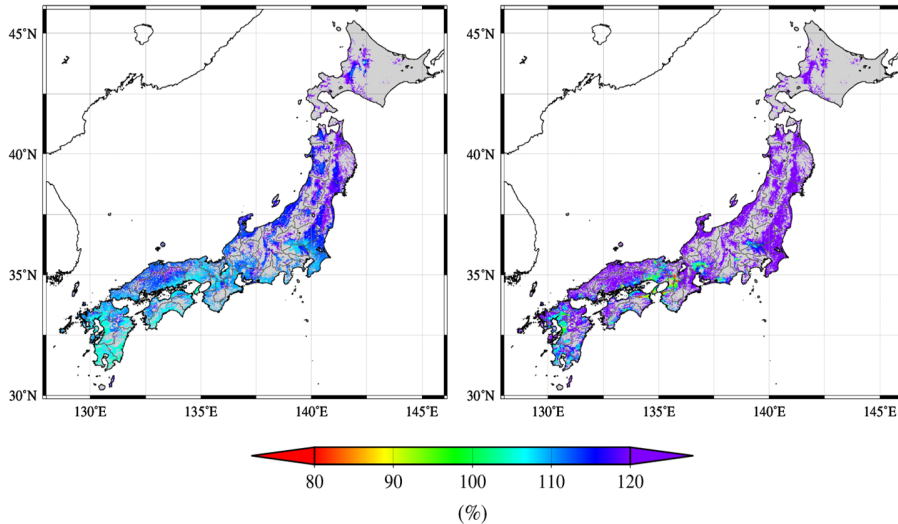
- 高温による品質低下リスクが高くなる地域は、気温上昇の大きいRCP8.5で21世紀末には東北北部まで拡大する。

MRI-CGCM3, RCP2.6, 21世紀中頃

MRI-CGCM3, RCP8.5, 21世紀末

MRI-CGCM3, RCP2.6, 21世紀中頃

MRI-CGCM3, RCP8.5, 21世紀末

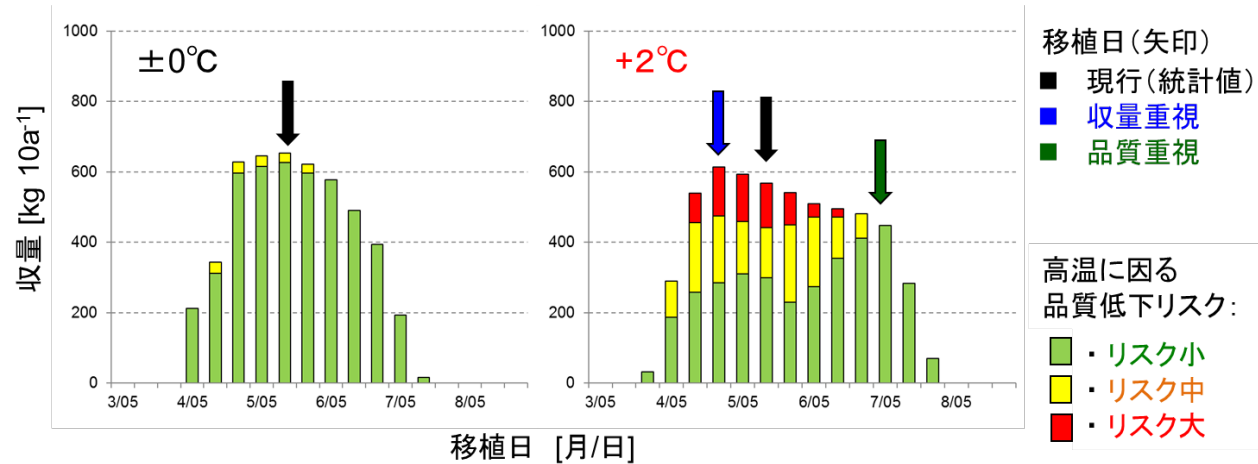


## ■ 適応オプションのまとめ

- 地域ごとのニーズに応じた適応オプションとして、影響評価結果と複数の適応策を組み合わせた政策・普及のオプションを提示した。

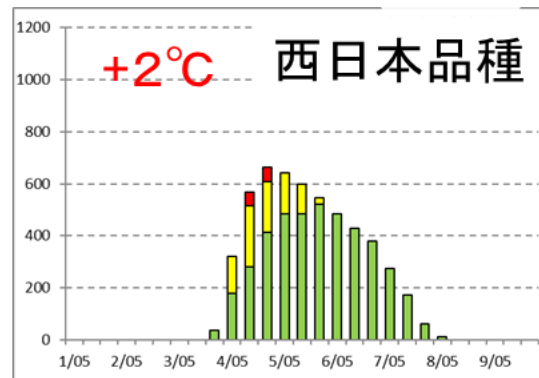
### 【適期植え付け】

- 適切な田植え時期を選択することで、コメの収量や品質の最大化を図る。

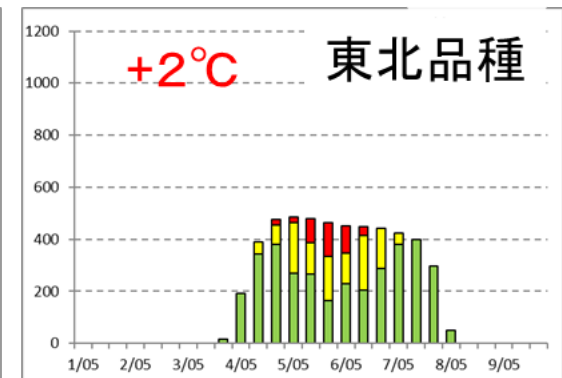


### 【早晩性の異なる品種】

- 西日本品種では、現在の移植日でも高収、高品質となった。
- 一方で東北品種については、早植えの可能性もあることが明らかになった。



現在の移植日でも高収、高品質



早植えの可能性も有り